

ワイドえひめ

地域特産の「愛南ゴールド」(河内晩かん)の栽培実習などに取り組む南宇和高校(愛南町御荘平城)が、農業や食に関するグループ活動を表彰する「全国高校生農業アクション大賞」で準大賞に選ばれた。生産者の負担軽減につながる実証研究が評価され、生徒らは「さらに地域に貢献できるよう取り組みを続けたい」と決意を新たにしている。

南宇和高「全国高校生農業アクション」準大賞

河内晩かん農家負担減へ



全国高校生農業アクション大賞で準大賞に輝いた南宇和高校の生徒

高樹栽培 低樹栽培 作業効率向上 品質も

同大賞は全国農業協同組合中央会などが毎年主催し、全国から15グループを認定。20万円を贈って3カ年の計画を支援した後、優れた実績を残したグループを顕彰している。

南宇和高は2022年度の第6回に農業科果樹専攻生班で応募した。全国有数の河内晩かんの産地である愛南町で、樹高が高くなり生産者の高齢化も進む中、管理や収穫に負担が増している問題に着目。解決に向け、有効とされる低樹高栽培の実証研究を学校園地で進めてきた。



審査会で3年間の成果を発表する生徒(南宇和高提供)

樹容積や収穫時間の違いを数値化し、低樹高も枝が横に広がりやす栽培が作業効率の向上と果実の高品質化を実現できることが分かったと説明した。ドローンを使った園地の3D化や生産者への普及の取り組みもアピールした。同校はこれまでも河内晩かんに関する取り組みで国際規格「グローバルGAP」の認証を受け、農林水産省主催のコンクールで農産局長賞を受賞するなど活躍してきた。今後、中心となり活動を引き継ぐのが2年(山本憲太郎)